

10周年記念誌発刊にあたって

札幌くらぶ

会長 上田 文雄



札幌くらぶが発足して10年を経過し、発足当初から係わった者の一人として感慨を新たにしております。

札幌くらぶは、音楽を愛し札幌を愛する人による札幌応援団として、平成8年8月に誕生しました。札幌を愛するファンが結集して、札幌の演奏を楽しむだけではなく、様々な角度から札幌を支援し、札幌がより素晴らしいオーケストラに育つようファンの立場でできることを見極め、実行しようという意気込みを持っての出発でした。

発足当初は楽員さんからも、一般市民の方からも、なかなか存在意義を理解していただけず、会員数も伸び悩みましたが、徐々に札幌くらぶが目指すところを多くの皆様にご理解いただけるようになり、会員数も500名を越すホスト会員を有する団体へと成長しました。その契機はなんとといっても札幌の協力を得ながら「札幌くらぶコンサート 札幌と遊ぼう」を開催し続けたことにあると思います。くらぶ会員が自らチケットを販売し Sale Talk として札幌のすばらしさを語り伝えるのです。音楽部活に励んでいる中学生を無償招待したり親子が札幌を楽しみやすくする料金体系を工夫し、演奏会では子どもに指揮者体験をしてもらうなど、「札幌と遊ぼう」というコンセプトをもとに、応援団組織としての札幌くらぶのユニークな活動が多く市の理解を得たのではないかと思います。

「札幌くらぶコンサート」の理念は、上田札幌市政誕生と同時に市内の小学6年生全員がキタラホールで札幌の演奏を聞く「キタラファーストコンサート」事業に発展し、今日まで札幌圏の子どもたち10万人が既に札幌の演奏を体験することができています。

またこの間、いわゆる「札幌の危機」が起きて、財政面から札幌自体の存続が危ぶまれるような事態にもなりましたが、今になって振り返りますと、札幌にとっても個々の楽員にとっても「聴き手」や「ファン」の大切さを実感する良い契機でもあったように思えます。

札幌くらぶの活動は年々拡大し、平成18年には札幌くらぶの提唱により、日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOF C）を設立し、私がおその会長に任ぜられました。平成18年度の山形市における総会には、全国7つのプロオーケストラのファンクラブや支援団体、さらには日本オーケストラ連盟、アフィニス文化財団も参加されるという発展状況になってきています。

札幌くらぶは、今後も「札幌応援団」という基本姿勢を堅持しつつ、JOF Cの活動などを通じて、広く社会に向けてクラシック音楽とオーケストラの大切さを訴え、我が国の音楽文化の発展に寄与していきたいと思っています。

今回、札幌くらぶ創立10周年記念誌を発行に際し、札幌くらぶの意図するところの一端を申し述べ、今後とも札幌くらぶの活動をご理解いただき、多くの皆様が私たちの仲間としてご参加くださいますようお願いしてごあいさついたします。